

令和2年度社会福祉推進事業

「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」

介護福祉士養成課程の教員の 教育力向上に向けた研修

研修概要及び科目別資料集



令和3年3月

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けた研修 研修概要及び科目別資料集

Contents

本資料について	1
16 科目のモデル研修プログラム	1
I 新カリキュラムに関すること	
1. 求められる介護福祉士像と新カリキュラム	4
荻原順子／目白大学 人間学部 人間福祉学科	
2. 介護福祉士養成課程における修得度評価基準	12
川井太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科	
本間美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科	
3. カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～	18
津田理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	
II 介護教員講習会の基礎分野に関すること	
4. 基礎：新たな視点	24
①地域における介護実践	26
井上善行／日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科	
②チームケアを推進するためのマネジメント	29
新口春美／金城大学 社会福祉学部	
5. 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画	31
白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	
6. 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎	41
白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	
III 介護教員講習会の専門分野に関すること	
7. 介護過程の展開方法A	50
上田剛／河原医療福祉専門学校 介護福祉科	
8. 介護過程の展開方法B	56
平野啓介／旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻	
9. 介護のためのケーススタディ	66
野田由佳里／聖隷クリストファー大学 社会福祉学科 介護福祉コース	
10. 学生指導	76
溝部佳子／別府溝部学園短期大学 介護福祉学科	
11. 実習指導方法	86
石岡周平／町田福祉保育専門学校 介護福祉学科	
IV 教育方法に関すること	
12. アクティブラーニングを活用した授業展開	96
藤村裕一／国立大学法人鳴門教育大学 学校教育研究科	
13. 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】	108
嶋田直美／和歌山YMCA国際福祉専門学校 介護福祉士科	
14. 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】	115
木村あい／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	
15. ICTを用いた新たな授業方法	120
①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題	122
吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科	
②ICT (Google 社の G Suite) を活用した、双方向性の授業展開	125
中山見知子／群馬県立伊勢崎興陽高等学校 福祉系列長	
16. 「地域」を学ぶ授業のつくり方	131
吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科	

本資料について

本書は、令和2年度に介護福祉士養成課程の教育内容の充実及び教員の教育力向上のために作成された研修プログラムに基づき、モデル研修として実施された16科目のパワーポイントスライドをまとめた資料集である。

令和3年度以降、介護福祉士の養成に関係する教育機関の教員及び関係者は、教育力向上のための研修、OJT、勉強会等において本資料及び本資料を使用したモデル研修動画を視聴することが可能となる。なお視聴にあたっては、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会に視聴申し込みをする必要がある。本資料は、視聴するモデル研修動画を選択したり、視聴の際の手元資料として活用を図っていただきたい。

16科目のモデル研修プログラム ～教育内容の充実及び教員の教育力向上に向けた研修～

本書に資料として掲載しているモデル研修16科目は、大別して「Ⅰ新カリキュラムに関すること」「Ⅱ介護教員講習会の基礎分野に関すること」「Ⅲ介護教員講習会の専門分野に関すること」「Ⅳ教育方法に関すること」の4分野で組み立てをした。モデル研修のプログラムを構築するために実施された養成校や教員に対する調査結果を参考に、教員が教育上の課題として考えている内容、あるいは学び直しの要望が高かった内容である“新カリキュラムにある新しい視点への対応”“学生指導”“個人差に対応した授業展開”“介護過程”などを盛り込み、同時に新型コロナウイルス感染症拡大によりリモート等による授業展開ニーズがたかまっていることからICTを活用した授業方法などの科目を設定している。

モデル研修動画は各科目60分以内とし、視聴者が視聴選択の参考とできるように主な対象者を明示し、研修内容もそれに応じた内容として講義を展開した。なお、本資料をもとに実施・展開されているモデル研修16科目は、試行的な取り組みであり、内容は限定的であることをご理解いただきたい。

16科目のモデル研修プログラム

分野	科目名及び担当者（敬称略）	主な対象
Ⅰ 新カリキュラムに関する こと	1. 求められる介護福祉士像と新カリキュラム 荏原順子／目白大学 人間学部 人間福祉学科	新任、非常勤
	2. 介護福祉士養成課程における修得度評価基準 川井太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 本間美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科	専任
	3. カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～ 津田理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	全教員

分野	科目名及び担当者（敬称略）	主な対象
Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関する事	4. 基礎：新たな視点 ①地域における介護実践 井上善行／日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 ②チームケアを推進するためのマネジメント 新口春美／金城大学 社会福祉学部	全教員
	5. 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画 白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	新任、非常勤
	6. 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎 白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	新任、非常勤
Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関する事	7. 介護過程の展開方法A 上田剛／河原医療福祉専門学校 介護福祉科	新任、非常勤
	8. 介護過程の展開方法B 平野啓介／旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻	専任
	9. 介護のためのケーススタディ 野田由佳里／聖隷クリストファー大学 社会福祉学科 介護福祉コース	新任
	10. 学生指導 溝部佳子／別府溝部学園短期大学 介護福祉学科	専任
	11. 実習指導方法 石岡周平／町田福祉保育専門学校 介護福祉学科	新任、非常勤
Ⅳ 教育方法に関する事	12. アクティブラーニングを活用した授業展開 藤村裕一／国立大学法人鳴門教育大学 学校教育研究科	全教員
	13. 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】 嶋田直美／和歌山YMC A国際福祉専門学校 介護福祉士科	全教員
	14. 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】 木村あい／神戸女子大学 健康福祉学部社会福祉学科	全教員
	15. ICTを用いた新たな授業方法 ①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題 吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校介護福祉学科 ②ICTを活用した、双方向性の授業展開 中山見知子／群馬県立伊勢崎興陽高等学校 福祉系列長	全教員
	16. 「地域」を学ぶ授業のつくり方 吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校介護福祉学科	全教員

以降、各科目において掲載している参考文献（テキスト）は共通資料とし、書名のみを記載している。資料の詳細は、下表を参照されたい。また、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会のウェブサイトがアップロードされているので、適宜ダウンロードするなどして対応をしていただきたい。

共通資料一覧

- ・ 共通 1) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成 31/2019 年 3 月）「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」



- ・ 共通 2) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成 31/2019 年 3 月）「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」



- ・ 共通 3) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成 31/2019 年 3 月）「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」



- ・ 共通 4) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（令和 2/2020 年 3 月）「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」



I 新カリキュラムに関すること

◆科目1 求められる介護福祉士像と新カリキュラム（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成教育の全体像を把握することができる ・介護福祉士の教育の指針となる「求められる介護福祉士像」を理解できる ・カリキュラムの3領域と医療的ケアの展開内容を理解できる 				
講師	・荏原 順子 / 目白大学 人間学部 人間福祉学科				
研修概要	<table border="0"> <tr> <td>(1) 目標とカリキュラムの展開の観点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・求められる介護福祉士像に即した教育内容 ・チームマネジメント能力を養うための教育内容、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 </td> </tr> <tr> <td>(2) 3領域と医療的ケア</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・養成カリキュラム3領域と医療的ケア </td> </tr> </table>	(1) 目標とカリキュラムの展開の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・求められる介護福祉士像に即した教育内容 ・チームマネジメント能力を養うための教育内容、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 	(2) 3領域と医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・養成カリキュラム3領域と医療的ケア
(1) 目標とカリキュラムの展開の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・求められる介護福祉士像に即した教育内容 ・チームマネジメント能力を養うための教育内容、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 				
(2) 3領域と医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・養成カリキュラム3領域と医療的ケア 				
時間数	(1) 30分 / (2) 30分 計60分				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて：厚生労働省 第13回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 資料 平成30年2月15日 				

■展開内容

この科目は介護福祉士養成教育の内容についての全体像を理解する科目である。まず、介護福祉士の教育の指針となる「求められる介護福祉士像」の内容を理解する。それに基づきカリキュラムの中に展開されている内容を理解する（3領域と医療的ケア）。以上により、介護福祉士養成教育の全体像を把握することができるという構成である。

「求められる介護福祉士像」は、平成29年に出された「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」をもとに旧カリキュラムを見直し、新カリキュラムの柱となっているものである。介護福祉士が、チームの中で中核的な役割を果たし、リーダーの役割を担っていくためにどのようなカリキュラムの見直しをするのかということで検討された。その姿を具体的に実現するために新カリキュラムに展開される5つの観点は、①チームマネジメント能力を養うための教育内容、②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、③介護過程の実践力の向上、④認知症ケアの実践力の向上、⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上が、必要な教育内容のポイントとして挙げられている。「求められる介護福祉士像」では、目指していくべき姿として「専門職として自立的に介護過程が展開できる」ということが挙げられている。介護福祉士として領域「こころとからだのしくみ」や「人間と社会」で、人権・人の尊厳を理解し制度を把握し地域や環境のことを学び、「介護」で、介護の技術を学び、全てを集約して展開されるのが「介護過程」であり、介護の実践の過程である「介護過程」をしっかりと展開していける介護福祉士が求められている。

また、「関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアが実践できる」ということについては、チームケアが単にできるということではなく、他の職種がどんな役割を担っている

のか、他の職種の専門性をしっかりと理解し、その上で介護福祉士の役割を理解してチームケアが実践できること。そして「制度を理解し、地域や社会のニーズに対応できる」ということでは、より介護の実践が地域包括ケアの理念のもと、介護が必要な人が地域で生活していく、そのため、施設で生活しても施設が地域の中に働きかけていくということを実践できるように介護福祉士が学んでいくことなどが挙げられている。全体構成では、介護福祉士の養成は総時間数 1,850 時間で、①領域「人間と社会」、②領域「介護」、③領域「こころとからだのしくみ」、④「医療的ケア」に分けられ、この3領域と医療的ケアの関連性が重要であり、3つの領域が「連動」「統合」によって関連づけられている。

令和2年度生活困窮者救済労働支援事業費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：新任、非常勤

分野Ⅰ 新カリキュラムに関すること

科目1 求められる介護福祉士像と新カリキュラム

公開期間：令和3年3月3日～12日

荻原 順子 / 目白大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的 (求められる介護福祉士像と新カリキュラム)

- 介護福祉士教育の全体像を理解する。
 - 介護福祉士の教育の指針となる「求められる介護福祉士像」の内容を理解する。
 - それに基づきカリキュラムの中に展開されている内容を理解する(3領域と医療的ケア)。
- 以上により、介護福祉士養成教育の全体像を把握することができる。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

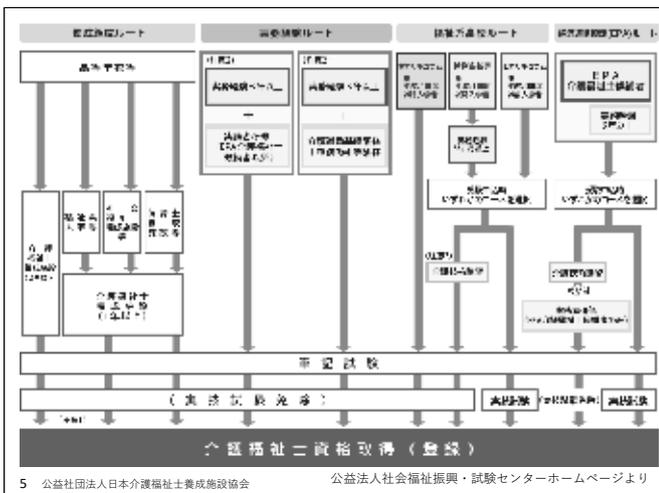
(1)	介護福祉士教育の目標と「求められる介護福祉士像」	30分
(2)	カリキュラムの中に展開されている観点： チームマネジメント能力を養うための教育内容、 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等	
(3)	介護福祉士の養成カリキュラムの領域： 3領域「人間と社会」「介護」「ことごとからだのしくみ」と医療的ケア	30分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士の養成には3ルートある

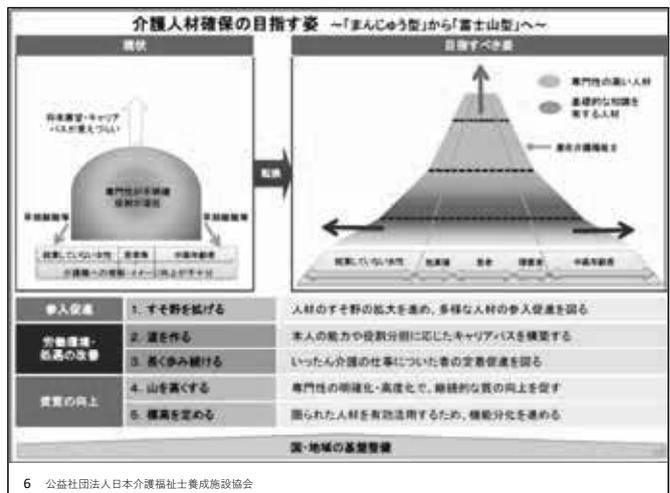
実務経験ルート		養成施設ルート		福祉系高校ルート	
養成内容	修業年数	養成内容	修業年数	養成内容	修業年数
人間と社会 介護福祉士法 福祉の基礎 福祉の発展 福祉の展望	4年	人間と社会 介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	3年	人間と社会 介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	3年
介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	1年	介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	1年	介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	1年
介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	1年	介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	1年	介護福祉士法 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者) 介護福祉士法(実務経験者)	1年

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

公益法人社会福祉振興・試験センターホームページより



6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて（概要）	
議題・議題	平成29年10月4日 社会福祉審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会
<p>○ 介護職の業務実施状況をみると、介護福祉士とそれ以外の者で明確に業務分担はされていない。</p> <p>○ 介護事業所では業務を分担できるほどの職員がいないと、勤務系サービスでは1人で対応しなくてはならないことから勤務時に業務の業務を実施する必要があり、業務系サービスでは業務系サービスが専任で対応することから介護職員が担当して介護を提供する必要があること、に留意が必要。</p> <p>○ 管理者の認識では、認知症の認知症のある利用者やキーメンタルケアが必要な利用者などへの対応、介護過程の展開におけるアセスメントや介護計画の作成・見直しなどの業務は介護福祉士が専門性をもって取り進めなければならない。</p> <p>○ また、介護職のリーダーについて、介護職の統括力や人材育成能力などの能力が求められるもの、十分に発揮できていないと懸念している管理者が多い。一方で、介護職の指導・育成や介護過程の展開等を重視している事業所では、リーダーの役割等を明確にし、キャリアパスへ反映するなどの取組を行っている。</p> <p>○ 介護分野への参入にあたって不安を感じていることには、「業務系等への対応」「介護保険制度等の理解」「ケアの適切性」といったことが挙げられている。</p>	<p>業務内容に応じた各人材の役割・機能に着目するのではなく、利用者の多様なニーズに対応できるよう、介護職のグループによるケアを推進していくことで、介護人材に求められる機能や必要な能力等を明確にし、介護分野に参入した人材が基礎・能力に応じてキャリアアップを図り、各人材が期待される役割を担っていくようにすべき。</p>
<p>業務に合わせた具体的な対応</p> <p>介護職のグループ別役割・リーダーの育成</p> <p>○ 介護職がグループで提供する介護サービスの質や介護福祉士の社会的評価の向上に向け、一定のキャリアパスを有する実務経験を積んだ介護福祉士を介護職のグループにおけるリーダーとして育成。</p>	<p>介護福祉士養成課程におけるカリキュラムの見直し</p> <p>○ 介護福祉士の専門職として、介護職のグループの中で中核的な役割を担い、認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加などに伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要。</p>
<p>介護人材の不足解消に向けた人材の確保の参入</p> <p>○ 介護未経験者の介護分野への参入をきっかけとするともに、非業務時の対応などの参入にあたって感じている不安を払拭し、多様な人材の参入を促進するため、人材の確保を推進。</p>	<p>介護福祉士養成課程のケアの実践の促進</p> <p>○ 実践との役割分担について、「高齢・看護師等の働き方ビジョン-種別別」の概要も踏まえ、利用者への職務分担及び経営実態の実施状況や研修体制の整備状況などの実態を調査。</p>

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

求められる介護福祉士像	
< 平成19年度カリキュラム改正時 >	< 今回の改正で目指すべき像 >
<ol style="list-style-type: none"> 1. 尊厳を支えるケアの実践 2. 現場で必要とされる実践的能力 3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる 4. 施設・地域（在宅）を適切に活用できる能力 5. 心理的・社会的支援の重視 6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる 7. 多職種協働によるチームケア 8. 一人でも基本的な対応ができる 9. 「個別ケア」の実践 10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力 11. 関連領域の基本的な理解 12. 高い倫理性の保持 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する 2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる 3. 具体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる 4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる 5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる 6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる 7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する 8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションの、的確な記録・記述ができる 9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる 10. 介護職の中で中核的な役割を担う 11. 高い倫理性の保持

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

求められる介護福祉士像は介護福祉教育の指針	
求められる介護福祉士像	
1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する	
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる	
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
6. 地域の中で、施設・在宅に関わらず、本人が望む生活を支えることができる	
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
10. 介護職の中で中核的な役割を担う	
+	
高い倫理性の保持	養成校ごとの独自性

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ	
(1)	介護福祉士教育の目標と「求められる介護福祉士像」
(2)	カリキュラムの中に展開されている観点： チームマネジメント能力を養うための教育内容、 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等
(3)	介護福祉士の養成カリキュラムの領域： 3領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」と医療的ケア

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムの中に展開されている五つの観点	
①	チームマネジメント能力を養うための教育内容
②	対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
③	介護過程の実践力の向上
④	認知症ケアの実践力の向上
⑤	介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムの中に展開されている五つの観点	
①	チームマネジメント能力を養うための教育内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職のグループの中での中核的な役割やリーダーの下で専門職としての役割を發揮することが求められている。➡リーダーシップやフォロワーシップを含めた、チームマネジメントに関する教育内容の拡充を図る。
②	対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者の生活を地域で支えるために、多様なサービスに対応する力が求められる➡各領域の特性に合わせて地域に関連する教育内容の充実を図る。
③	介護過程の実践力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応する➡各領域で学んだ知識と技術を領域「介護」で統合し、アセスメント能力を高め実践力の向上を図る。

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムの中に展開されている五つの観点

④認知症ケアの実践力の向上

- ・ 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容
- ・ 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解する内容

⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

- ・ 施設・在宅に関わらず、地域の中で本人が望む生活を送るための支援を実践するために、介護と医療の連携を踏まえ、人体の構造・機能の基礎的な知識や、ライフサイクル各期の特徴等に関する教育内容の充実を図る。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

- | | |
|-----|--|
| (1) | 介護福祉士教育の目標と「求められる介護福祉士像」 |
| (2) | カリキュラムの中に展開されている観点：
チームマネジメント能力を養うための教育内容、
対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 |
| (3) | 介護福祉士の養成カリキュラムの領域：
3領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」と医療的ケア |

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3領域と医療的ケア

- ・ 2で述べた五つの観点は、これまでの介護福祉士の養成カリキュラムの領域、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域と「医療的ケア」の中で展開されている。

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

養成施設ルート 3領域と医療的ケア

介護福祉士の養成カリキュラム
総時間数 1850時間

- ① 領域「人間と社会」 240時間
- ② 領域「介護」 1260時間
- ③ 領域「こころとからだのしくみ」 300時間
- ④ 「医療的ケア」 50時間

教育内容	時間数
人間と社会	240
人間の尊厳と自立	30以上
人間関係とコミュニケーション	60以上
社会の理解	60以上
人間と社会に関する選択科目	—
介護	1,260
介護の基本	180
コミュニケーション技術	60
生活支援技術	330
介護過程	150
介護総合演習	120
介護実習	450
こころとからだのしくみ	300
発達と老化の理解	60
認知症の理解	60
障害の理解	60
こころとからだのしくみ	180
医療的ケア	50
総時間数	1,850

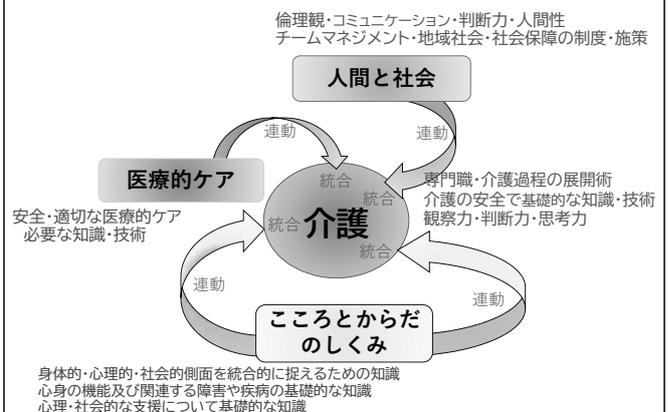
16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程 カリキュラム 領域と時間数 総時間数 1850時間

領域	時間数	合計	
領域:人間と社会	人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション 社会の理解 人間と社会に関する選択科目	30時間以上 60時間以上 60時間以上 —	合計240時間
領域:介護	介護の基本 コミュニケーション技術 生活支援技術 介護過程 介護総合演習 介護実習	180時間 60時間 330時間 150時間 120時間 450時間	合計1260時間
領域:こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ 発達と老化の理解 認知症の理解 障害の理解	120時間 60時間 60時間 60時間	合計300時間
領域:医療的ケア	医療的ケア	50時間以上 50時間以上+演習	合計50時間以上

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

科目の領域の関係



到達目標を達成するための
介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

領域:「人間と社会」の目的

「人間の尊厳と自立」「人間関係とコミュニケーション」「社会の理解」

1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。
2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。
3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。
4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。
5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい
領域:人間と社会

人間の尊厳と自立

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

人間関係とコミュニケーション

(1) 対人援助に必要な人間関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。

(2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

社会の理解

(1) 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。

(2) 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。

(3) 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。

(4) 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目と時間数(例)

領域:人間と社会 合計240時間

人間の尊厳と自立 30時間以上

人間関係とコミュニケーション
60時間以上

社会の理解 60時間以上

人間と社会に関する選択科目

人間の尊厳と自立 30時間以上
社会福祉入門 30時間
生命倫理 30時間

人間関係とコミュニケーション
60時間以上

人間関係論 30時間
組織と人材管理 30時間
チームマネジメント 30時間

社会の理解 60時間以上
高齢者福祉論 30時間
障害者福祉論 30時間

人間と社会に関する選択科目
地域福祉論 30時間

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

到達目標を達成するための
介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

領域:「介護」の目的

「介護の基本」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護過程」「介護総合演習」「介護実習」

1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。
2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。
3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。
6. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい

領域:介護

介護の基本

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

コミュニケーション技術

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

生活支援技術

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

介護過程

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい

領域:介護

介護総合演習

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

介護実習

(1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。

(2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目と時間数(例)

領域:介護 合計1260時間	介護の基本 180時間 介護の基本 I・II・III・IV・V・VI 30時間×6
介護の基本 180時間	コミュニケーション技術 60時間 コミュニケーション論 30時間 コミュニケーション技術 30時間
コミュニケーション技術 60時間	生活支援技術 300時間 生活支援技術 I・II・III・IV・V 60時間×5
生活支援技術 300時間	介護過程 150時間 介護過程 I・II・III・IV・V 30時間×5
介護過程 150時間	介護総合演習 120時間 介護総合演習 I・II・III・IV 30時間×4
介護総合演習 120時間	介護実習 450時間 介護福祉実習 I 100時間 介護福祉実習 II 100時間 介護福祉実習 III 250時間
介護実習 450時間	

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

到達目標を達成するための

介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

領域:「こころとからだのしくみ」の目的 「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」 「認知症の理解」「障害の理解」

1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。
2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識をつける。

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい

領域:こころとからだのしくみ

こころとからだのしくみ

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。

発達と老化の理解

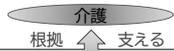
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。

認知症の理解

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

障害の理解

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。



27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目名と時間数(例)

領域:こころとからだのしくみ 合計300時間	こころとからだのしくみ 120時間 こころとからだのしくみ I 30時間 こころとからだのしくみ II 30時間 こころとからだのしくみ III 30時間 こころとからだのしくみ IV 30時間
こころとからだのしくみ 120時間	発達と老化の理解 60時間 発達と老化の理解 I 30時間 発達と老化の理解 II 30時間
発達と老化の理解 60時間	認知症の理解 60時間 認知症の理解 I 30時間 認知症の理解 II 30時間
認知症の理解 60時間	障害の理解 60時間 障害の理解 I 30時間 障害の理解 II 30時間
障害の理解 60時間	

28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

到達目標を達成するための

介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

「医療的ケア」の目的

医療的ケア+演習

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

29 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「医療的ケア」と演習の内容

○ 基本研修(講義形式・実時間で50時間以上)

○ 演習 ※基本研修を修了した学生に限る。

- ・ 喀痰吸引:口腔(5回以上)、鼻腔(5回以上)
 - ・ 気管カニューレ内部(5回以上)
 - ・ 経管栄養:胃ろう又は腸ろう(5回以上)、経鼻経管栄養(5回以上)
- ※併せて、救急蘇生法演習についても1回以上実施すること。

○ 実地研修(可能な限り、実地研修又は見学を実施)※基本研修・演習修了者に限る。

教員要件:5年以上の実務経験を有する医師・保健師・助産師・看護師であって医療的ケア研修会を終了したもの

30 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目名と時間数(例)

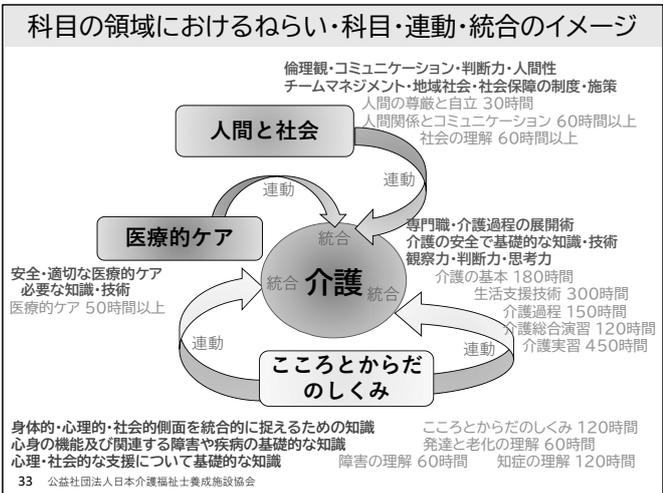
領域: 医療的ケア 合計50時間以上 (実時間) 医療的ケア 50時間以上+演習	医療的ケア I 30時間(15回) 医療的ケア II 30時間(15回) $1.5 \times 30 = 45$ 時間 プラス $1.5 \times 4 = 6$ 時間 医療的ケア演習 各項目5回
---	--

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

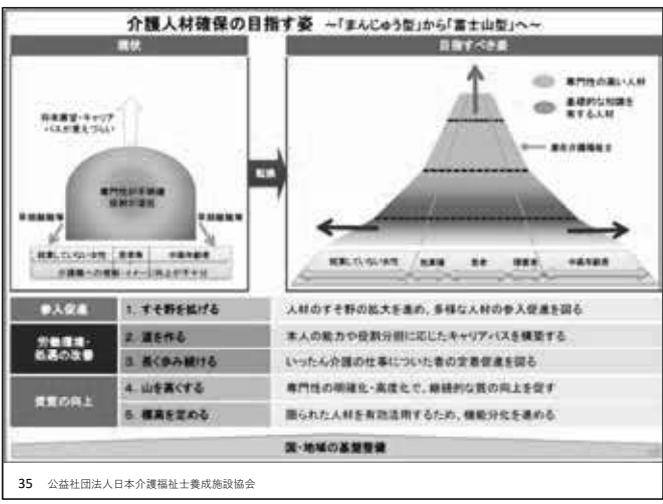
介護福祉士養成課程 カリキュラム 領域と時間数 総時間数 1850時間

領域: 人間と社会 合計240時間 人間の尊厳と自立 30時間以上 人間関係とコミュニケーション 60時間以上 社会の理解 60時間以上 関連科目-----	領域: 介護 合計1260時間 介護の基本 180時間 コミュニケーション技術 60時間 生活支援技術 300時間 介護過程 150時間 介護総合演習 120時間 介護実習 450時間
領域: ことごとからだのしくみ 合計300時間 ことごとからだのしくみ 120時間 発達と老化の理解 60時間 認知症の理解 60時間 障害の理解 60時間	領域: 医療的ケア 合計50時間 医療的ケア 50時間以上+演習

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



- ### 求められる介護福祉士像は介護福祉教育の指針
- | 求められる介護福祉士像 |
|---|
| 1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する |
| 2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる |
| 3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる |
| 4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる |
| 5. QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる |
| 6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる |
| 7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する |
| 8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる |
| 9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる |
| 10. 介護職の中で中核的な役割を担う |
| + 高い倫理性の保持 |
- 養成校ごとの独自性
- 34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



参考文献

- 1) 介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き: 日本介護福祉士養成施設協会 平成31年3月
- 2) 介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて: 厚生労働省 第13回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 資料 平成30年2月15日

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目2 介護福祉士養成課程における修得度評価基準（主な対象：専任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における修得度評価基準の目的、期待される効果について理解する ・修得度評価基準の活用方法について理解する
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・川井 太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 ・本間 美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景・目的について ・修得度評価基準の枠組みとなる7つのコンピテンシーと24の具体的能力について ・修得度評価基準の見方と活用方法について ・「介護過程」を例にあげて
時間数	40分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」

■展開内容

はじめに介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景そして目的を説明しその上で、どのような流れで修得度評価基準項目が作成されたかについて解説している。また、評価基準作成の視点や作成過程においてでた意見等も紹介している。

次に流れに沿って、コアコンピテンシー7項目、その下位項目として作成した24の能力、そして24の具体的能力を柱に導き出した120の修得度評価基準項目を紹介している。

次に、修得度評価基準の見方と活用方法について「介護過程」を例にあげて説明している。

■工夫点

「介護福祉士養成課程における修得度評価基準」の活用方法として、授業科目「介護過程」を例にとり説明した。具体的には『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』と見比べながら、120の評価基準も一つひとつがこの『教育方法の手引き』における「想定される教育内容の例」と関連付けられていることを説明した。

■留意点

本研修は、分野Iの新カリキュラムに関する科目2である。新カリキュラムが目指す介護福祉士養成のねらいを理解して、各養成校が独自にカリキュラム作成の工夫をすることを期待する。そのためには、科目1の「求められる介護福祉士像と新カリキュラム」と本科目を受講したうえで、科目3「カリキュラムツリー作成～学びの流れと科目間連携～」を受講することで、分野Iの総体的な理解が深まると考える。

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：専任

分野 I 新カリキュラムに関すること

科目 2 介護福祉士養成課程における 修得度評価基準

公開期間：令和3年3月3日～12日

川井太加子 / 桃山学院大学
本間 美幸 / 北翔大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護福祉士養成課程における修得度評価基準の目的、期待される効果について理解する。
- 修得度評価基準の活用方法について理解する。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

- 介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景・目的について
- 修得度評価基準の枠組みとなる7つのコンピテンシーと24の具体的能力について
- 修得度評価基準の見方と活用方法について
- 「介護過程」を例に挙げて

40分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(1)

介護福祉士養成課程における 修得度評価基準作成の 背景・目的

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成の背景

- ① 平成24(2012)年3月介護福祉士養成課程卒業時に修得しておくべき介護技術等の指標の作成
- ② 平成31(2019)年3月介護福祉士養成課程における修得度評価基準の作成



5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成の目的

見直しを行った教育内容がその「目的」や「ねらい」にそって体系的、効果的に教授されるために、修得すべき知識や技術の評価指標を作成する。

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』より

■想定される養育内職の例 (16) ところどころから抜粋

養育内職の種類	実施の場	実施の目的
1. 生活支援	生活支援施設	生活支援施設での実践を通して、生活支援の重要性を認識し、生活支援の役割を担う能力を育成する。
2. 介護実践	介護施設	介護施設での実践を通して、介護の重要性を認識し、介護の役割を担う能力を育成する。
3. 福祉実践	福祉施設	福祉施設での実践を通して、福祉の重要性を認識し、福祉の役割を担う能力を育成する。
4. 社会実践	社会施設	社会施設での実践を通して、社会の重要性を認識し、社会の役割を担う能力を育成する。

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(2)

修得度評価基準の枠組みとなる
7つのコアコンピテンシーと
24の具体的能力について

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成の視点

- 修業年限等に関係なく、1,850 時間をベースとした介護福祉士養成課程に共通するものとする。
- 新たな「求められる介護福祉士像」及び平成29 (2017) 年度に見直された新カリキュラムと結びつけた内容とする。
- 介護福祉士養成課程を卒業するまでに修得すべき基準とする。
- 段階別等の細かい評価基準を作成するのではなく、一定の方向性をあらわす基準を示し、その活用方法は各養成校の方針・判断にゆだねる。

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成

(1) コアコンピテンシーの作成

- ① 他資格における先行研究を参考に、「介護福祉士養成課程における修得度評価基準としてのコアコンピテンシー」の枠組み【たたき台】を作成。
- ② これと「求められる介護福祉士像」にある項目との関係を整理し、介護に特有な、あるいは重要な7つのコアコンピテンシーについて整理した。

* コアコンピテンシーとは：中核となる能力・実践能力

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(2) コアコンピテンシーと具体的能力

- ① コアコンピテンシーの能力をより具体化し、下位項目として24の具体的能力を示した。
- ② 24の具体的能力は、コアコンピテンシーがどのような能力から構成されているかについて示すものであり、新カリキュラムの「教育に含むべき事項」「留意点」「想定される教育内容の例」を基に作成している。

参考とした資料

- ・ 「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」(平成30年6月、一般社団法人日本看護系大学協議会)
- ・ 「相談援助実習・実習指導ガイドラインおよび評価表」(平成25年11月、一般社団法人日本社会福祉士養成校協会実習教育委員会)
- ・ 「福祉系大学における人材養成機能向上に関する調査研究報告書」(平成24年3月、社団法人日本社会福祉教育学校連盟)

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

7つのコアコンピテンシーと24の具体的能力

1 介護を実践するための基本能力	(1) 尊厳を保持し、自立を支援する能力 (2) 対象となる人の権利を擁護する能力 (3) 意思表示や意思決定を支援する能力 (4) 支援に必要な人間関係を形成する能力
2 対象となる人を生活者として理解する能力	(5) 生活者を身体的・心理的・社会的・実存的側面から理解する能力 (6) 生活者をとりまく環境を理解する能力 (7) ライフサイクルの観点から生活者を理解する能力
3 心身の状況に応じた介護を実践する能力	(8) 対象となる人や家族をエンパワメントする能力 (9) 対象となる人の日常生活や社会生活を支援する能力 (10) 障害や認知症、慢性疾患などのある人を支援する能力 (11) 介護予防やリハビリテーション、終末期などの状況に応じて支援する能力
4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力	(12) 生活の場や家族形態・状況に応じて支援する能力 (13) 安心・安全な生活環境を整える能力 (14) 制度やサービスなどの社会資源を活用し、支援する能力 (15) 災害などの非常事態に対応し、支援する能力
5 介護過程を展開する実践能力	(16) 対象となる人をアセスメントする能力 (17) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力 (18) 機転に基づき生活支援技術を選択し実践する能力 (19) 実践を評価し、改善する能力
6 チームで働くための実践能力	(20) チームの一人としての役割を自覚し、協働する能力 (21) 他の職種・機関などと連携する能力
7 専門職として成長し続ける能力	(22) 実践の中で研鑽を深め、研究する能力 (23) 介護にかかわる情報を発信する能力 (24) 自身の健康を管理する能力

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準項目

①7つのコアコンピテンシーとその下位項目である24の具体的能力を柱に、それらに結びついている新カリキュラムの「留意点」や「想定される教育内容の例」から「介護福祉士養成課程における修得度評価基準」120を作成した。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

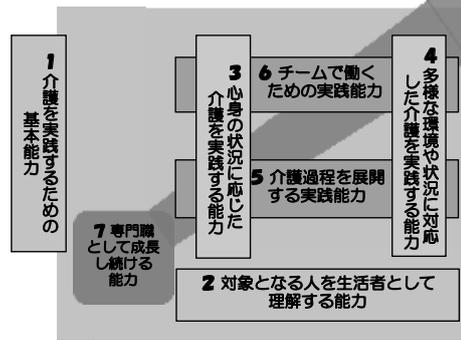
コアコンピテンシー	具体的能力	留意点	科目	教育に活用する教材	想定される教育内容の例
1 介護を实践するための基本能力	1. 本人の意思決定を尊重するために必要なコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	1 介護の基礎と専門職としての役割	1) 介護の基礎と専門職としての役割	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
	2. 本人の意思決定に必要な事項への理解を深め、説明できる	コミュニケーション技術	2 介護の現場と生活者の声	2) 介護の現場と生活者の声	1) 介護の現場と生活者の声 2) 介護の現場と生活者の声 3) 介護の現場と生活者の声
	3. 障害の特性に応じたコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	3 介護の現場と生活者の声	3) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
2 対象となる人を生活者として理解する能力	11. 介護を必要とする人の生活の場や状況、多様な価値観やニーズを把握し、理解できる	介護の現場	1 介護の基礎と専門職としての役割	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
	12. バイトやボランティアを体験するために必要なコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	2 介護の現場と生活者の声	2) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
	13. 介護を必要とする人の生活の場や状況、多様な価値観やニーズを把握し、理解できる	介護の現場	3 介護の現場と生活者の声	3) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

コアコンピテンシー	具体的能力	留意点	科目	教育に活用する教材	想定される教育内容の例
1 介護を实践するための基本能力	1. 本人の意思決定を尊重するために必要なコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	1 介護の基礎と専門職としての役割	1) 介護の基礎と専門職としての役割	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
	2. 本人の意思決定に必要な事項への理解を深め、説明できる	コミュニケーション技術	2 介護の現場と生活者の声	2) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
	3. 障害の特性に応じたコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	3 介護の現場と生活者の声	3) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
2 対象となる人を生活者として理解する能力	11. 介護を必要とする人の生活の場や状況、多様な価値観やニーズを把握し、理解できる	介護の現場	1 介護の基礎と専門職としての役割	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
	12. バイトやボランティアを体験するために必要なコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	2 介護の現場と生活者の声	2) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声
	13. 介護を必要とする人の生活の場や状況、多様な価値観やニーズを把握し、理解できる	介護の現場	3 介護の現場と生活者の声	3) 介護の現場と生活者の声	1) 人間の権利と介護の主体性 2) コミュニケーションの重要性 3) 介護の現場と生活者の声

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程における修得度評価基準としてのコアコンピテンシーとその構造



コアコンピテンシー (core competency) とは、中核となる能力・実践能力

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準としての7つのコアコンピテンシー

■ 1 介護を实践するための基本能力

さまざまな生活背景や多様な価値観をもつ対象に対して、介護福祉の専門職として人権尊重や権利擁護を基盤に人間関係を形成する能力である。

■ 2 対象となる人を生活者として理解する能力

介護の対象となる人を生活者としてとらえ、身体的・心理的・社会的・実存的側面から全人的に理解し、生活環境やライフサイクルの観点からも理解することができる能力である。

■ 3 心身の状況に応じた介護を实践する能力

対象となる人をエンパワメントするかかわりや、対象となる人の心身の状況に応じて日常生活や社会生活を支援すること、障害や認知症あるいは介護予防や終末期などの特定の状態・状況にある人に対して支援する能力である。

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

■ 4 多様な環境や状況に対応した介護を实践する能力

介護の対象となる人の生活の場や状況に応じて支援することや、安心・安全な生活環境を整えること、制度や社会資源を活用して支援すること、災害などの非常事態に対応して支援する能力である。

■ 5 介護過程を展開する実践能力

知識・技術を用いてアセスメントし、アセスメントに基づき介護計画を作成する能力である。さらに、介護計画に対して根拠に基づき生活支援技術を適切に実践すること、実践を評価し、評価をもとに改善につなげる能力である。

■ 6 チームで働くための実践能力

同職種及び他職種からなる包括的なチームで働くため、チームの一員としての役割を自覚し協働する能力、他職種機関などと連携する能力である。

■ 7 専門職として成長し続ける能力

介護福祉士としての専門的能力を発展させながら成長し続けていくことを意味する。そのために、実践の中で研鑽し研究することや、介護にかかわる情報を適切な方法で発信すること、自身の健康を管理することができる能力である。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

評価基準作成により得られる効果

修得度評価基準の作成により、

- ① 当該科目で評価すべき項目や内容、評価方法の明確化が図られ、科目間で評価内容や評価項目の重複がなくなる
- ② 仮に重複したとしても、当該科目に相応しい評価方法が選択できる
- ③ 科目間での評価の構造化を図ることにより、より体系的な評価が可能となる

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(3)

修得度評価基準の活用方法について

～「介護過程」を例に挙げて～

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

コアコンピテンシー	目標的能力【243】	介護福祉士養成課程における修得度評価基準【240】	科目	得意にならば卒業	修得できる修得内容の例
【16】対象となる人をアセスメントする能力	91. 介護実践におけるアセスメントの意義と重要性を説明できる	101. 介護実践におけるアセスメントの意義と重要性を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	92. 事例と背景を基に、適切な対応・対応方法を提案できる	102. 事例と背景を基に、適切な対応・対応方法を提案できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	93. 利用者に適切な介護や生活支援を行う目的を踏まえ、生活課題や介護の方向性を検討できる	103. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
【17】アセスメントに基づき介護計画を作成する能力	94. 利用者の状態やニーズに基づいて、人権の尊重と福祉の向上を図る	104. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	95. 介護実践における介護計画の意義について説明できる	105. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	96. 立てた介護計画の根拠や内容について、関係者や関係者と説明できる	106. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
【18】根拠に基づき生活支援技術を生かして実践する能力	97. アセスメントに基づき立てた生活課題や介護の方向性に基づき、介護計画を実行できる	107. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	98. 立てた介護計画も、利用者の状態やニーズに基づき変更が必要となる	108. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	100. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	109. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

コアコンピテンシー	目標的能力【243】	介護福祉士養成課程における修得度評価基準【240】	科目	得意にならば卒業	修得できる修得内容の例
【16】対象となる人をアセスメントする能力	91. 介護実践におけるアセスメントの意義と重要性を説明できる	101. 介護実践におけるアセスメントの意義と重要性を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	92. 事例と背景を基に、適切な対応・対応方法を提案できる	102. 事例と背景を基に、適切な対応・対応方法を提案できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	93. 利用者に適切な介護や生活支援を行う目的を踏まえ、生活課題や介護の方向性を検討できる	103. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
【17】アセスメントに基づき介護計画を作成する能力	94. 利用者の状態やニーズに基づいて、人権の尊重と福祉の向上を図る	104. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	95. 介護実践における介護計画の意義について説明できる	105. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	96. 立てた介護計画の根拠や内容について、関係者や関係者と説明できる	106. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
【18】根拠に基づき生活支援技術を生かして実践する能力	97. アセスメントに基づき立てた生活課題や介護の方向性に基づき、介護計画を実行できる	107. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	98. 立てた介護計画も、利用者の状態やニーズに基づき変更が必要となる	108. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識
	100. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	109. ケース「認知症-歩行難」における評価の意義を説明できる	介護過程	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識	13 介護過程の意義・目的 23 介護過程を実施するための一連の行為と意識

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「介護過程を展開する実践能力」の具体的な4つの能力

- 介護過程を展開する実践能力
- (1) 対象となる人をアセスメントする能力
 - (2) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力
 - (3) 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力
 - (4) 実践を評価し、改善する能力

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「介護過程を展開する実践能力」の具体的な4つの能力

- 介護過程を展開する実践能力
- (1) 対象となる人をアセスメントする能力
 - (2) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力
 - (3) 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力
 - (4) 実践を評価し、改善する能力

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(1) 対象となる人をアセスメントする能力

91. 介護実践におけるアセスメントの意義と着眼点を説明できる
92. 事例と実習を通して、情報の分析・解釈・統合ができる
93. 状況に応じた介護や生活支援という目的を踏まえ、生活課題や介護の方向性を検討できる
94. 利用者の活動に影響をおよぼしている人間の心理、人体の構造と機能について説明できる

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』より

■ 設定される教育内容の例 (ア) 介護過程

教育内容	学習目標	学習内容	評価方法
1. 介護過程の意義と重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	1. 介護過程の意義と重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	1. 介護過程の意義と重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	1. 介護過程の意義と重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。
2. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	2. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	2. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	2. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。
3. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	3. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	3. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	3. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。
4. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	4. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	4. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	4. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。
5. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	5. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	5. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。	5. 介護過程の重要性を理解し、介護過程の重要性を説明できる。

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』より

■ 設定される教育内容の例 (イ) こころとからだのしくみ

教育内容	学習目標	学習内容	評価方法
1. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	1. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	1. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	1. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。
2. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	2. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	2. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	2. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。
3. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	3. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	3. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	3. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。
4. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	4. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	4. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	4. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。
5. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	5. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	5. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。	5. こころとからだのしくみを理解し、こころとからだのしくみを説明できる。

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準の活用方法 まとめ

『教育方法の手引き』と併せて活用する

- ① 自校のカリキュラムの組み立てに活用する
- ② 科目ごとの教授内容の見直しに活用する



28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目3 カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～（対象：全教員）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・科目間連携、統合が理解できる ・カリキュラムツリーとその活用が理解できる 				
講師	・津田 理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科				
研修概要	<table border="0"> <tr> <td>(1) 科目間連携・統合</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 </td> </tr> <tr> <td>(2) カリキュラムツリーとその活用</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合 </td> </tr> </table>	(1) 科目間連携・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 	(2) カリキュラムツリーとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合
(1) 科目間連携・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 				
(2) カリキュラムツリーとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合 				
時間数	(1) 30分／(2) 30分計 60分				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3) 介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 				

■展開内容

前半は、介護福祉士養成新カリキュラムにおける領域ごとの科目において習得する知識や技術は、科目間連携やその先にある統合を意識して教授することが重要であることから、科目間連携と統合の意味と、1850時間の科目間連携と統合について説明している。

後半は、学びの流れを具体的に示すカリキュラムツリーについて説明し、介護福祉士養成課程新カリキュラムにおける専門科目のみのカリキュラムツリーの作成例を示している。そのうえで、カリキュラムツリーの活用により期待できる効果と活用の場合について説明している。

■工夫点

科目間連携、統合とカリキュラムツリーの具体的な内容については例題を用いて説明している。受講者が、介護福祉士養成課程におけるカリキュラムにおける領域ごとの科目のつながりを、カリキュラムツリーを通して客観的にみることで、一つひとつの科目の位置づけや目的などを捉えなおし、介護福祉士養成施設ごとのカリキュラムツリーを再考する動機づけになるよう、例題を示している。さらに、この科目内においては、領域ごとに介護が赤、こころとからだのしくみが黄、人間と社会が緑、医療的ケアが紫と、一貫した色分けによって図示している。

■留意点

本研修は、分野Iの新カリキュラムに関することの3番目の科目である。そのため、科目1、2の目指すべき介護福祉士像、コアコンピテンシーを受講したうえで、本研修を受講することで本研修の理解が深まると考えるため、本研修受講前に目指すべき介護福祉士像とコアコンピテンシーの受講を勧める。

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

対象：全教員

分野 I 新カリキュラムに関すること

科目3 カリキュラムツリー作成
～学びの流れと科目間連携～

公開期間：令和3年3月3日～12日

津田 理恵子 / 神戸女子大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 科目間連携、統合が理解できる
- カリキュラムツリーと活用が理解できる

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

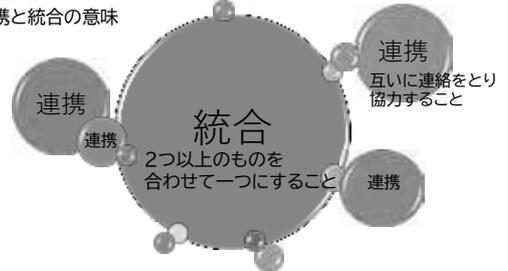
(1)	①科目間連携・統合 ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例	30分
(2)	②カリキュラムツリーとその活用 ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合	30分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

I 科目間連携・統合

1)介護福祉士養成カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携

①連携と統合の意味



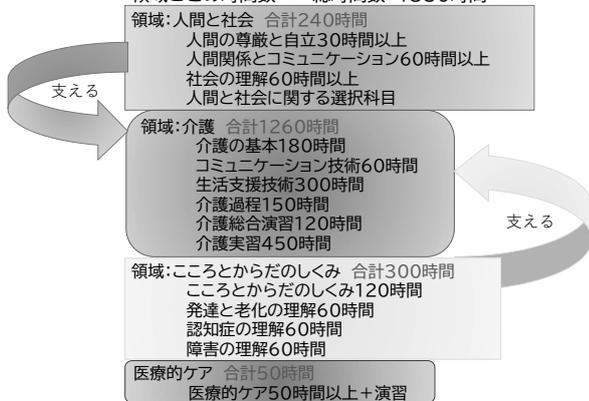
科目間連携・・・一つひとつの科目が互いにつながる

↓
連携 + 連携 + 連携 + 連携 = 統合

↓
科目の統合・・・一つひとつの複数科目が相互につながり、まとまりをもった全体を形成すること

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

②介護福祉士養成課程 新カリキュラム
領域ごとの時間数 総時間数 1850時間



5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2)科目間連携・統合
学年ごとの科目間連携・統合のイメージ

1回生前期・科目の例



1回生後期・科目の例



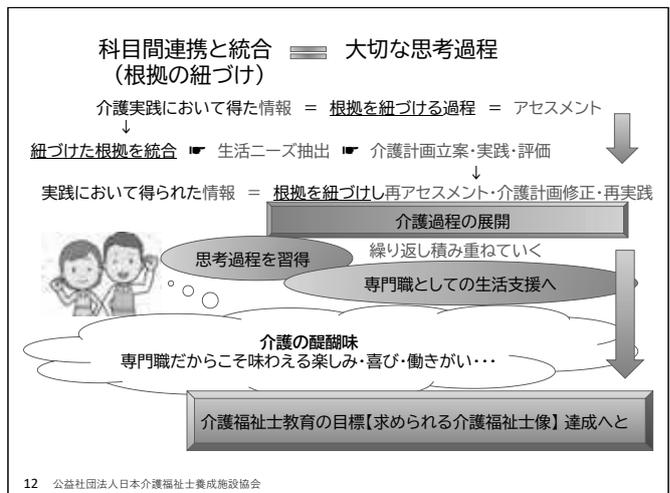
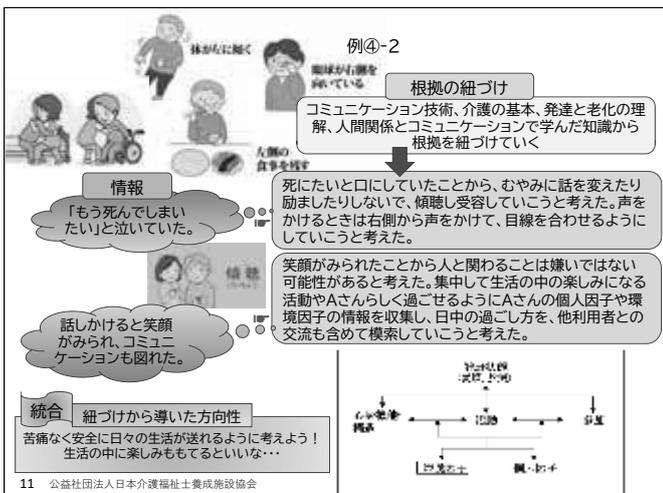
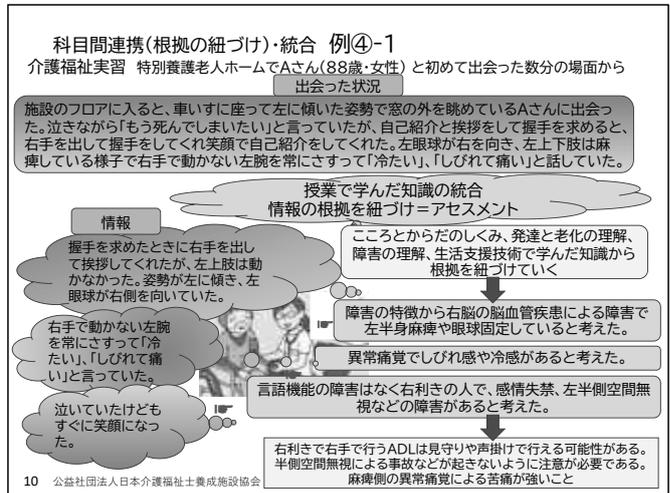
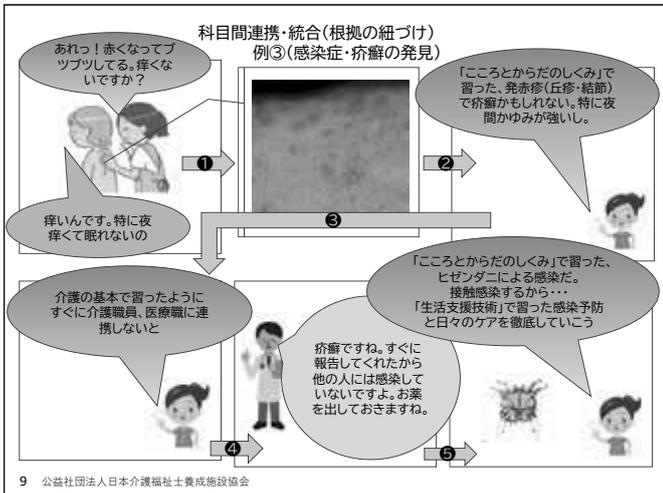
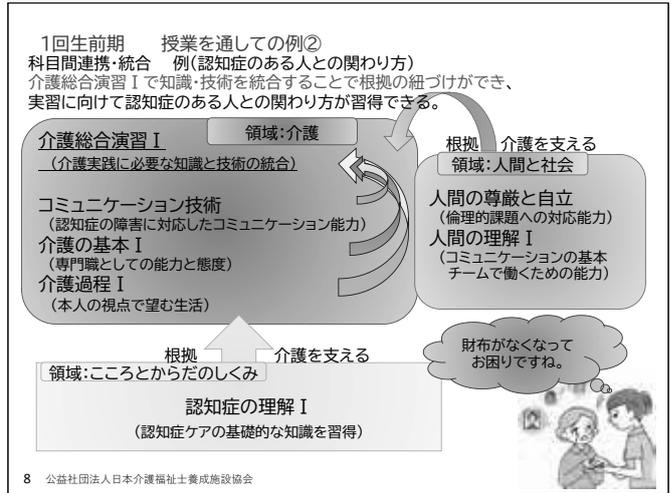
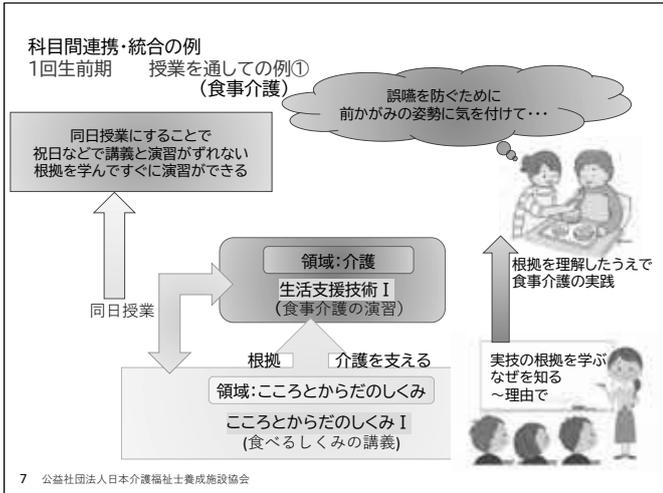
2回生前期・科目の例



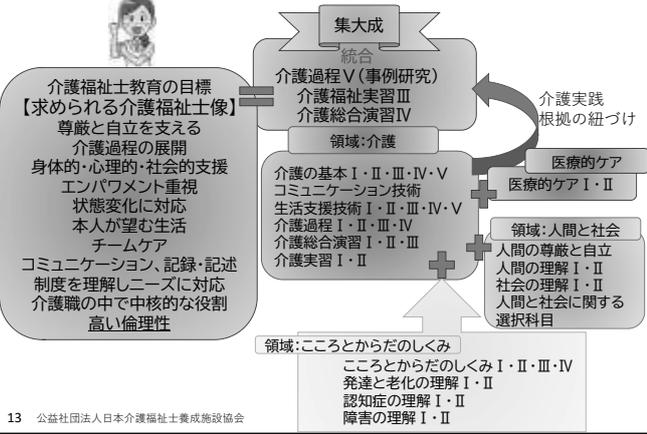
2回生後期・科目の例



6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



2年間の科目間連携・統合(介護福祉士教育の目標)



13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

IIカリキュラムツリーとその活用

1)カリキュラムツリーとは

カリキュラムマップとカリキュラムツリーの違い

カリキュラムマップ

授業科目と教育目標を示した表
履修系統図であるカリキュラムツリーを発展させたもの
①学位授与の方針(ディプロマポリシー)
②教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)
③各授業科目(群)
①~③の対応を明示し、卒業までに身につけるべき能力を養うためにそれぞれの授業科目(群)が果たす役割を示したもの

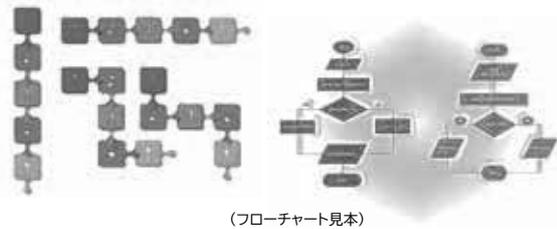
カリキュラムツリー

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
各授業科目のつながりを示したものの
関連する科目を線で結んだり学修の順序を示し
授業科目間の系統性を図示したもの

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

なぜカリキュラムツリーをつくるのか?

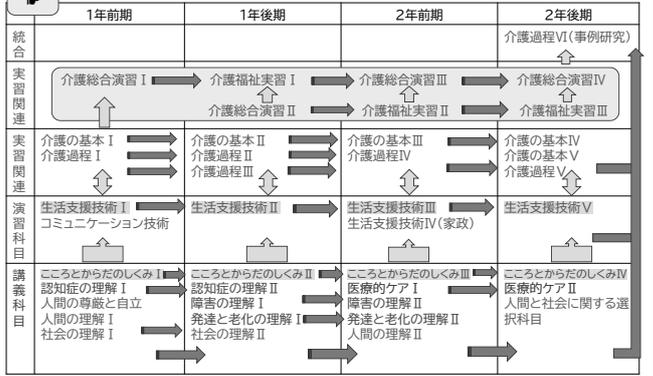
教育目標を達成するために
必要な授業科目の流れ、各授業科目のつながりを示し
カリキュラムの年次進行、カリキュラムの体系的を一望し
学習内容の順次性、授業科目間の関連性を同時に図示化・ビジュアル化する
(フローチャート)



(フローチャート見本)

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

例1 介護福祉士養成課程新カリキュラム 専門科目のカリキュラムツリーの例



領域:介護(赤) 領域:こころとからだのしくみ(青) 領域:人間と社会(緑) 医療的ケア(紫)

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

※同日授業実施



17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

※同日授業実施 青:連携を意識した科目

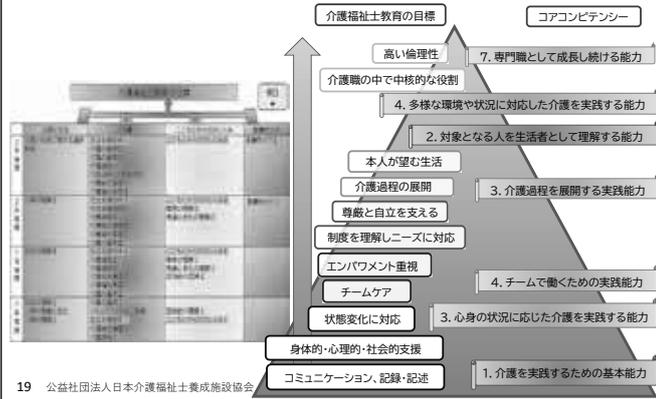


18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

赤い字(集大成)※同日授業実施

2)カリキュラムツリーの活用により期待される効果

専門科目のカリキュラムツリーと、
介護福祉士教育の目標・コアコンピテンシー7項目



19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムツリー 活用により期待される効果



カリキュラムツリーは、
介護福祉教育の目標、コアコンピテンシーを視野に入れて、
介護福祉士養成施設ごとの独自性を取り入れたカリキュラムを
ビジュアル化して示すもの。

ビジュアル化＝視覚化・見える化・イラスト化して伝えやすくすること

どういった学生を育成したいのか……

例えば ICTに強い…情報などの科目を設定
国際力に強い…海外研修などの科目を設定
介護福祉士養成課程専門科目＋独自性としての一般科目



ビジュアル化したカリキュラムツリーにより科目間連携や統合が一目瞭然になる。
キャップ制の中での科目の優先順位や、バランスが一目瞭然になる。

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生にとってのメリット 活用により期待される効果 1

カリキュラムツリーには、
介護福祉士養成課程で学ぶ科目が配置

それを目に見える形で
ビジュアル化することで、

その科目の位置づけ、
学ぶ意義と動機づけ、
その科目と他の科目間連携
が明確になる

カリキュラムツリーを見ると、
ここからだのしくみを
1回生前期から学ぶのは、
生活支援技術の根拠を
学ぶために必要な科目間連携で
1回生に基本的な知識と技術を
習得することが、
今後の科目の統合に
つながっていることがわかった。
難しいけど頑張ろう！



21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生にとってのメリット 活用により期待される効果 2

カリキュラムツリーで科目間連携や
統合を意識しながら
2年間過ごすことで

介護福祉士教育の目標が
常に意識され

日々の授業への取り組みの
モチベーション向上につながる

国家試験を受験して合格後に
専門職者として活躍していく
学生にとっては
学習意欲の向上から
国家試験合格率上昇につながる

カリキュラムツリーを見てると将来、
専門職者として利用者さんの望む生活が
支援できるようになりたいと思えた。
そのためには、日々の学習が大事！
時間を大切に学びながら
国家試験に合格できるよう
積み重ねていこう！



22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉実習におけるメリット 活用により期待される効果 3

介護福祉実習の手引きに
「カリキュラムツリー」を明示して
実践現場の介護職員に説明することで

専門職者としての介護福祉士を
育成するための実習であることが
再認識されるだけでなく

目指すべき介護福祉士像の
周知にもつながる

目指すべき介護福祉士像、
コアコンピテンシー…なるほど。
この学校はこの考えに基づいて
科目を配置して介護福祉士養成に
取り組んでいるっていうことが。
意識して実習生を育てていこう！
学生に目標してもらえように、
目指すべき介護福祉士像に恥じない
介護をしていこう！



23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3)カリキュラムツリー活用場

オリエンテーション

教員:新任教員・非常勤

学生:入学時・各科目

国家試験対策

各科目のまとめ

履修登録

各科目のシラバス(授業の到達目標)作成

介護福祉実習の手引き(学生・実習先施設の実習指導担当者)…など



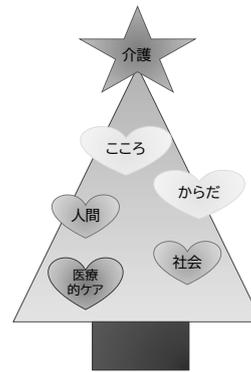
24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員としてカリキュラムツリーを作成する過程を通して
科目間連携・統合、科目の位置づけを捉えなおすことができる

客観的な授業の振り返りが自然にできて
自己研鑽につながる



カリキュラムツリーの作成は、
楽しく、やりがいにつながる！！



参考文献

- ・公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
(平成31/2019年3月)「介護福祉士養成課程新
カリキュラム教育方法の手引き」
- ・公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
(平成31/2019年3月)「介護福祉士養成課程に
おける修得度評価基準の策定等に関する調査研
究事業報告書」

ご清聴ありがとうございました